

大学生のための 情報教育メンター 養成講習会

2期生募集中

* 情報処理技術者試験(国家資格)
受験対応レベル

オリエンテーション

5月11日(水) 20:00-21:00

日時	2022年5/18, 25, 6/1, 8, 15 (ステージ1全5回)
場所	ZOOMミーティング のできる環境
条件 準備	全学部対応 Windows PC (スペックは不問)
参加費	8,500円 (ステージ1 受講料)

この講習会への参加で
高校とは違うアプロ
ーチで数学を学べます。



講師：

村田光生(情報教育指導者育成協議会)
岡嶋拓也(ITストラテジスト)
白拍子新(EU教員ネットワーク)

特別講師：

四方義啓(名古屋大学名誉教授)

協力：

Dr Mart Laanpere (エストニア・
タリン大学デジタル工学部教授) ほか

お手続き：

まずはwebのお問い合わせフォーム
よりご連絡ください。(裏面参照)

【主催】一般社団法人サファイア
青少年グローバル交流センター

sapphire-tokyo.jp



ワークショップ開催にあたって

情報社会の発展に伴い、今後は情報教育の重要性がますます高まります。2020年度に小学校に「プログラミング教育」が導入され、2025年度からは大学入学共通テストに「情報」が導入されるように、教育の内容もますます多様化・高度化することは間違いありません。「GIGAスクール構想」によって1人1台の情報端末が当たり前になりますが、それを活用するためにも情報教育が欠かせません。

「ポスト・コロナ期の新しい教育における情報教育の検討」も世界中で試みられています。EUの小中学校では、国境を越えて合同授業や共同研究が行われるようになっています。

情報教育はコンピュータ教育ではなく、情報を活用するための教育です。すべての教員が、時代の流れを踏まえながら情報教育の本質を理解し、実践していくことが求められますが、学校現場にそれを求めるのは常識的に難があります。そこで当センターでは、大学生にこの学びを身につけてもらい、学校の外で小中学生に伝える環境作りをしております。

また、ネット上の情報の言語は英語が63%、2位のロシア語は8%、日本語はわずか3%です。日本人の多くはこの3%の情報の中で生きています。ポスト・コロナ期の世界で活躍していくためには、情報教育と英語を「ツール」として身につけることは必須です。このワークショップに参加していただける**大学生が子どもたちの強力な支えとなり、そのことが社会貢献にもつながる**と信じています。

一般社団法人サファイア青少年グローバル交流センター

【特色】①国家資格レベルとオンライン講師の権利

②ワークショップで学んだことを実習体験

***ワークショップのみの参加も歓迎！**

ステージの内容：

【ステージ1全5講】プログラミング文法編

・サーティファイC言語検定を目指す

【ステージ2全5講】アルゴリズム編

・基本情報処理技術者（国家資格）を目指す

【ステージ3全5講】数学編 *1講座90分

ワークショップへのお問い合わせは

sapphire-tokyo.jp/apply/

一般社団法人サファイア青少年グローバル交流センター
情報WS係

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-11-6F

sapphire.ygec@gmail.com





【第1回説明会の参加者の声】

☆プログラミングをただ習得するだけではないということを伺うことができよかったです。

(お茶ノ水女子大3年)

☆プログラムの趣旨について理解を深めることができたとともに、プログラミングを学ぶことの重要性を実感できる素晴らしい機会でした。(名古屋大学大学院1年)

☆セミナーの内容や情報教育のありかたについて理解することができました。(東京工業大学3年)



【講師】

村田光生(当センター情報教育指導協議会委員)

40代前半までシステムエンジニアとしてIT関連企業に勤務。機会を得て専門学校の教員になったのをきっかけに、高校で約10年の情報教育に携わる。ICT教育のスペシャリスト。今回このプロジェクトのシラバス・教材作成に中心的に関わる。



岡嶋拓也 (ITストラテジスト)

一橋大学を卒業後、ビジネス経験 22 年。欧米外資系企業での勤務が大半を占めており、現場第一線で、英語ベースでの業務経験が豊富。論理的分析力、現場での丁寧なコミュニケーションに根ざした情報収集力を活かし、緻密なレポートに定評。



【特別講師】

四方義啓 (名古屋大学名誉教授/インドIMBIC研究所副所長/当センター長)

京都大学大学院修士課程を修了ののち、カリフォルニア大学(バークレー校)講師。帰国後、名古屋大学教授。人間社会や自然界で生じる問題や現象を数学の領域に持ち込む多元数学を提唱。現在、名古屋大学名誉教授。研究分野は自然科学一般/数理解析学。

著書「数字を何故学ぶのか」(中公新書)、小学校中学校の数理教材開発に関わる。

【客員講師】



エストニア・オランダ・イスラエルなどの大学から先生を招き交流を図ります。

*前ページでも触れましたが コロナ禍でEU諸国を中心に小学校でも国境を越えた学びが盛んに行われるようになっていきます。私は 先日 リトアニア・アイルランド・オーストリア・トルコの小学校で オンラインを通じてのアートの授業を目の当たりにしました。この1年余り 教育現場の国際的な地域間格差が広がっていると感じています。アートに限らず オンラインによる合同授業・共同研究の学びは ツールとしての「英語とコンピュータサイエンス」を抜きにしては実現できません。大学生のみなさまに ご自身の学びが メンターとして活躍できるということを知っていただき このプロジェクトに気軽に参画していただければ幸いです。(MWI準備室)